

2007年度 第9回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2008年1月8日(火) 午後7時15分～8時25分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：阿部靖子、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、柳澤正樹
山下恭子、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：飯塚 睦<以上1名、敬称略>
傍聴者：1名
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、川崎 圭(主事)
今林朝香(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(12月)
資料 2：コーディネート状況等月次報告
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(1月)
資料 4：2007年度第8回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
資料 5：西東京ボランティア・市民活動センターの今後の取り組み
学習会資料：特定非営利活動法人生活企画ジェフリー リーフレット

委員長：明けましておめでとうございます。委員1名から欠席の連絡があり、出席予定者はすでに全員そろっているため2008年第1回目の会議を始める。今年もどうぞよろしくお願い致します。傍聴者が1名いるので、事務局から紹介してほしい。

事務局：西東京市社会福祉協議会総務課法人運営係長が会議を傍聴したいと同席させていただいているので、よろしくをお願いします。

委員長：資料の差し替えがあるようなので、説明してほしい。

事務局：昨日、職員会議があり、その議論の結果を加えているので、資料5を差し替えていただきたい。

委員長：それではさっそく報告事項から始める。

1. 報 告 事 項

(1) 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

12月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき12月に行われた主な事業についての報告が行われた。

委員長：質問や意見があれば出してほしい。市の企画部長を訪問したときのことを報告してほしい。

事務局：12月25日に運営委員長、地域福祉課長、私の3人で市企画部長を訪問した。先方は、企画部長、企画政策課長、企画政策課主幹に出席いただいた。内容は、まず当センターが取り組んでいる現状を説明をし、合併後の組織的な改革、具体的な事業についての説明を行った。それから当センターの強み、弱みなどの分析を説明し、最後に中間支援組織のあり方についての考えを伝えた。

委員長：平成20年度後半に市民活動支援センターを立ち上げる予定で進めるとのことだった。場所は、インギルの1階を考えているようだ。西東京ボランティア・市民活動センターの市の中での所管替えについても提案してきた。企画部長は、当センターの名称からボランティア活動の推進だけを行っていると考えていたようで、ボランティアという言葉にひっかかりがあったようだが、取り組みの説明をしてある程度納得していただいたようだった。今後も進

抄状況を報告していきたい。

質問、意見なく、12月期の業務報告を終了する。

12月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告をしてほしい。

事務局より、資料2に基づき12月のコーディネート状況の報告が行われた。

委員長：コーディネート状況の報告があったが、このことについて質問、意見はあるか。高校生のボランティア登録は何人くらいいるのか。

事務局：それほど多くはないが、夏の体験ボランティア終了後に登録した人がいる。また、学校のボランティア部に入っている人が登録をしてくれている。

他に質問、意見なく、12月期のコーディネート状況の報告を終了する。

1月期の業務予定

委員長：では、1月の業務予定について説明してほしい。

事務局より、資料3に基づき1月期の業務についての説明がある。

委員長：質問などがあれば出してほしい。

事務局：補足になるが、1月17日に予定しているボランティアグループ友の集まりへの出席に関連してだが、このグループからは、毎年寄付金をいただき、積み立てているので報告する。また、2月7日、午後6時から、西東京市企画政策課が市民活動団体との協働基本方針についての第2回意見交換会を開催するということであった。

委員：早稲田大学の授業は何学部で何をするのか。

事務局：第2文学部でボランティア活動の状況と強化プランというテーマをいただいている。

他に質問、意見なく、以上をもって1月期の業務予定の説明を終了する。

2. 学 習 会

特定非営利活動法人生活企画ジェフリーの取り組み

【委員からの話】

なぜ男女平等参画の分野でNPOを作ったのかということと、どういう状況の中で事業を運営しているのかということをお話したい。いきなりNPO法人を作ったのではなく、1994年に田無公民館の主催講座で女性セミナーがあり、企画段階から一緒に考えませんかという公民館だよりを見て応募した。そのセミナーでみんなで勉強した後、自主グループを立ち上げた。勤めながら地域で活動していきたいと考え、心の中がもやもやしているときにこの女性セミナーという言葉がずっと心に入ってきた。自主グループの代表になって10年経ったときに、2003年頃から、今後どうしようかということをおみんなで話し合った。その背景としては、男女共同参画社会基本法が定められ、またNPO法が作られ市民活動の中に男女共同参画という分野があり、社会的に活動してみたいという気持ちがあったことと、男女平等推進係が市役所にできることになり、ステップアップした活動ができるようになることと、女性センター構想もあることを知った。そこで責任ある活動を広くしたいということから自主グループをNPO法人にした。具体的な活動内容としては、講演・セミナー事業、普及啓発

事業、相談支援事業、調査研究事業を行っている。一番柱になるのは、講演・セミナー事業で収入にもつながっている。講演・セミナー事業で参加者の顔を見ながら語り合う関係性が作れている。また相談支援事業にもつながっていく。自分達が生活をしている中から疑問に感じることを取り上げて調査活動をしている。樋口恵子さんから調査依頼を受けたこともあった。その結果が本にまとめられている。東京ウィメンズプラザから助成金をもらって、男のプライドと家族の幸福度というテーマで調査し、男性のもっている家族に対する意識の調査を行った。女性も男性も何でこんなに大変なのだろうと思う。会話のない、何でこんなに家庭生活がつまらないものになっているのだろうという感想もあった。現在は5人で活動している。5人全員が男女平等参画に関わる事業の委員になっている。国際的な情報を得るために、女性センターの中間支援組織を学ぼうということを提言している「REN」というNPO法人の会員になっている。根本的に人権の問題として根の深いものがある。国際レベル、内閣府などの法律に生活が影響されることがあるので、法的整備の充実と家庭生活における平等間の充実という2つの柱をバランスよくやっていきたいと思っている。

ボランティア・市民活動センターと男女平等参画とどのような関係があるのかということ、市川房枝記念会が出している女性展望を見ると高齢者虐待の実態で被害者の4人に3人は女性であり、80歳代が4割を占めている。虐待のなかでも身体的虐待が64%、暴言や侮辱などの心理的虐待が36%、ネグレクトが30%となっている。社会福祉の問題と女性の人権という問題がつながるのではないかと考えている。内閣府のデータでは11月の第3日曜日を家族の日として施策をいろいろとやっているが、自分と地域のつながりは弱いと思う人が53%となっている。一方、同居家族とのつながりが強いと思っている人は88%もいる。家族とのつながりは強くなっているが地域とのつながりは薄くなっている傾向がある。家族を大切に考えることと地域との関わりという意識が一緒にならないという点で、ボランティア・市民活動センターの活動とも関係があると思う。ジェンダーバッシングということがあがるが、家族同士が平等感をもって民主的な関係を作ってこそ本当の家族になるのではないかと思う。男女平等参画が進むことによって家族の関係が豊かになると思い活動してきた。昨年、政治家の不遜な発言がいくつかあったが、こういったことに対して市民は敏感に反応しているのではないかと思う。これからも思うようにはすぐには進まないかもしれないが、こつこつと男女平等の社会を推進していきたいと思っている。

【質問・意見交換】

委員長：質問や意見はあるか。個別の方からの相談もあるのか。

委員：個人から具体的な相談もあるが、行政が行っている女性相談などを紹介している。私たちが答えを出すことはできないので、専門相談機関を紹介している。

委員長：岡山県で活動している団体を知っているが、個別のいろいろな相談があって大変だということ聞いた。

委員：西東京市でもやっと20万円の予算がついた。近隣の民間の施設に補助金を出して相談事業を行っている。

事務局：レジュメにパリテとの協働とあるがどのようなことを行うのか。

委員：パリテができるが、NPO法人なので行政の事業に協働しようという考え、姿勢があるということで、具体的なことは今はなく、これから行政が考えることだと思っている。

委員長：世代間によってジェンダーへの考え方の違いがあると思うがどうか。

委員：西東京市では調査の結果20代、50代の男性は考え方が似通っている。

委員：バブル期の世代の人たちの考え方は特別なものがあるように思う。

委員：女性の人権、男性の人権について法律が整備されてきたことによって、人権という点では当たり前になってしまっていて、目に見えないものになってしまっただが、夫と妻の関係ではまだ対等ではない。まだまだ問題はああると思う。何かが充実すると奥がみえなくなっているのではないかと思う。女性がしっかりと自分の位置づけを考えられる社会ではない。人権や感覚の問題だと思う。

委員：坂東真理子さんの本を読んでどう思うか。

委員：正直、がっかりした。自己の意思をはっきり言うことが品格だと思うが、引くことが大切だという考えで何を言いたいのがわからなかった。品格というのは、自分を大切にすることだと思う。

委員長：自分が関わっていることと違う分野の話の聞くと別の視点でおもしろいと思う。ではこれで学習会を終了する。

3. 審 議 事 項

(1). 2007年度第8回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料4により、第8回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：訂正などの意見はあるか。

委 員：資料6ページの27行目、「～傾聴した相手に関してウンセリングの～」を「傾聴した相手に関してカウンセリングの～」に訂正するように。

委員長：資料7ページの37行目、「そういう意味では～」を「そういう意味では～」に訂正するように。

以上の修正意見が出され、他に訂正、削除、追加などの意見なく、2箇所を訂正したうえで第8回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

(2). 西東京ボランティア・市民活動センターのこれからについて

委員長：前回の運営委員会で、各委員が強化プランの事業項目を分担して、今後の取り組みを考えてくることにしていたが、事務局からも資料が出ているので、まずは事務局から説明をしてほしい。

事務局より資料5（差し替え分）に基づき、今後のボランティア・市民活動センターの動きについて、事務局の考えの説明がある。

委員長：では続いて、次回の会議で各委員が詳しく説明することの要約や、事務局案に対する意見でもよいので出してほしい。最初に、中間支援組織の機能について意見を出してほしい。

委 員：西東京ボランティア・市民活動センターは、西東京市社会福祉協議会が設置主体であるということを中心に考える。とは言え、福祉に限定するものではないのでそこをどうするかを整理しておくことが必要だと思っていて地域の中でプロデューサー的機能を果たすことが西東京ボランティア・市民活動センターではないかと考える。半分公、半分民間という性格があるのではないかと。

委員長：コーディネートについてはどうか。

委 員：コーディネートでは、ニーズを発見する工夫が必要だと思う。市民活動コーディネーターを育てることが西東京ボランティア・市民活動センターの役割だと思う。コーディネートを事務所の中だけで行っているのではなく、外へ出て行く。商店会などとネットワークを作りながらコーディネートを行ってはどうかと思う。団塊の世代の人たちの地域社会での役割は、世話役たとえばアウトドア、子どもの安全などの世話役、地域の先生役、相談役があると言われている。そのことを考えれば、ボランティア・市民活動センターがやるべきことも出てくるのではないかと。

委員長：情報の収集・発信について考えたことを発表してほしい。

委 員：こういった人を募集している、こういうことをできる人がいるということをクリックアップして強く出すことが必要だと思う。さらにみんなが関わりやすいものを出していく必要がある。個人の特徴が出ていないと食いつかないということがあるので、顔がわかるようなものを前面に出す必要がある。

委員長：まなびの場と相互交流の場の提供はどうか。

委 員：なぜ人が集まらないのか、なぜボランティア・市民活動センターを知らない人が多いのかを考えると、ボランティア・市民活動センターを必要としていない、総合的な魅力がない、ということが挙げられるのではないかと。ホームページできめ細かな情報を出したり、前向きな情報、報告ではなくこれからしようとしている情報を出していくことが必要だと思う。視点としては、ホームページを読む側の立場に立って作ることをしてほしい。

委員長：続いて、市民参加による新たな事業へのチャレンジの項目について意見を出してほしい。

- 委員：オーダーメイドの講座を行う。たとえばボランティア活動をしようという人に、内容を選択できるようなプログラムの講座を有料で行う。ボランティア活動をしたいという人が相談に来たときに、紹介した活動の内容によって必要な技術習得の講座をすぐに受けられるようにする。そんな講座を用意しておけたらよいと思う。また、夏休みに施設見学会を親子で実施するなど、夏休みのイベントも考えるとよいと思う。
- 委員：コミュニティビジネスのコンサルティングを行ってはどうか。講座などでコミュニティビジネスをテーマにした取り組みが必要ではないか。地域のニーズから新たな事業を生み出すことの支援をボランティア・市民活動センターが行ってはどうかと思う。
- 委員：ボランティア・市民活動センターの位置づけは、中間支援組織としてひとくくりできると思う。それを担うボランティア・市民活動センターに何が足りないかという市民ニーズを明確に把握しきれていないのではないかと思う。市民との情報交換会をしたうえで何をすればよいのかを決めていけばよいのではないか。求められていることをきちんと提供できる組織になることが必要だと思う。まずはいろいろな人、団体との意見交換を徹底して行ってはどうか。
- 委員長：いろいろな意見が出された。次回はもう少し詳しく議論をし、具体化していけたらとよいと思っている。どのように具体化できるかを考えてきてほしい。

以上をもって、2007年度第9回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。